第２次弥富市総合計画（基本構想）骨子

◆ はじめに ◆

第１章　計画策定にあたって

１．策定の目的

弥富市は、平成２１年度から「第１次弥富市総合計画」に基づく各種施策を展開し、まちの目指す将来像を「みんなでつくるきらめく弥富　自然と都市が調和する元気交流空間」と掲げ、目標を実現するため計画的なまちづくりを実施してきました。この現行計画は、平成３０年度をもって終了することから、平成３１年度を初年度とする第２次弥富市総合計画を策定し、総合的、計画的なまちづくりの指針とするものです。

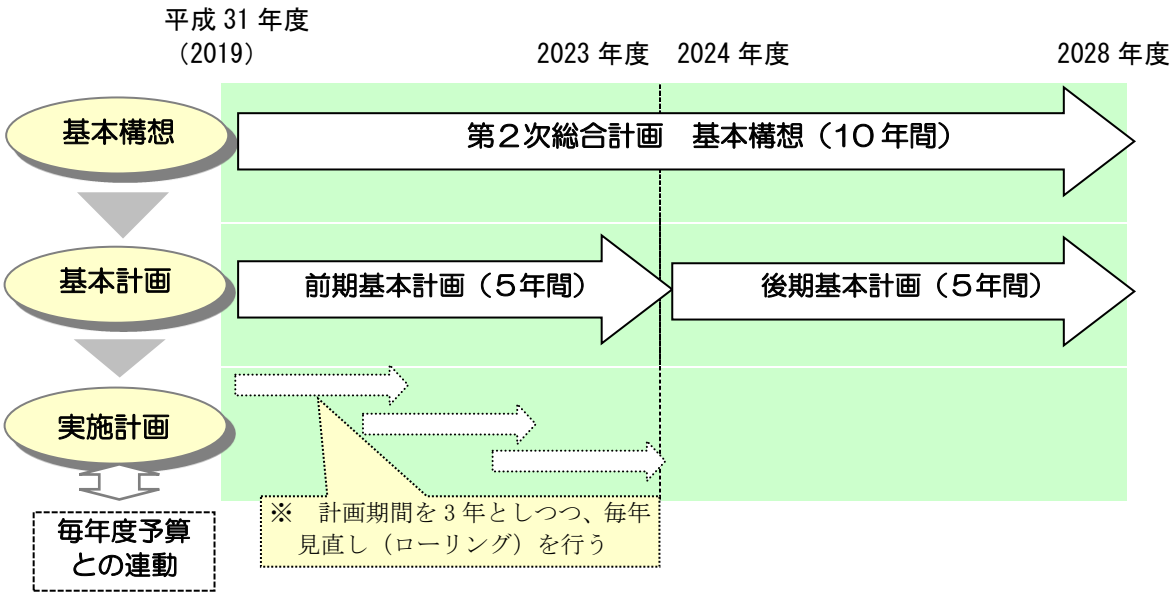
２．位置づけ

第２次総合計画についても、第１次計画と同様に、市全体及び各分野の今後の方向性を示すものであり、市民と行政との共通目標となるとともに、すべての行政活動の基本となり、その重要性は変わるものではないとの認識から、今後とも市の最上位計画として位置づけます。

３．計画の構成と期間

総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成し、期間を 10 年間（基本構想）とします。

基本構想 …弥富市の将来を見据えたまちづくり・行政運営の基本的な理念や方向性、目標を示す
基本計画 …主に基本構想に基づき実施する具体的な施策の内容を示す
実施計画 …基本計画に示す施策ごとに実施する具体的な事業を示す



（第２次計画策定の基本的な考え方）

●市民の参画と行政との協働による“市民主体”を基本とした計画

今後のまちづくりでは、住民の参画・協働意識を生かした地域力の維持・強化が求められるとともに、生涯にわたって市民が活躍できるまちの実現が求められます。

さらに、地方分権の実現に向けて自立した弥富市をつくり上げ、持続的に経営していくためには、社会情勢や市民ニーズの変化を的確に捉え、市民と行政とが信頼関係を深めつつ、協働のまちづくりを進めていくことが一層強く求められます。

このため、本計画は、策定段階から効果的な市民参画・協働の取り組みを行うとともに、計画の策定後にも、市民と職員が一体となって行政運営ができるように“市民の主体的な参画と熟議”に根ざした総合計画とします。

一般市民・中学生アンケート(実施済)、公募市民メンバーによるワークショップ開催（終了）、計画愛称・ロゴマーク募集中、総合計画セミナー開催（終了）

●「弥富」らしさを最大限に生かし、明るい未来を築く計画

弥富市は「金魚」に代表される特産物をはじめ、交通条件による大都市への好アクセスや産業拠点なども有する魅力あるまちです。また、人口は 44,000 人余りで推移しており、極端な人口減少には至っていませんが、少子高齢化は確実に進行し、若い世代の転出傾向などもみられています。

このため、本計画は、地域特性・資源を最大限に生かし、弥富市で住み続けたい、子どもを生み育てたいと思われる、選ばれるまちの実現を目指した計画とします。

●一層効率的な経営と、成果の点検・評価が行える計画

市を取り巻く情勢が厳しさを増す中でも、選択と集中の視点のもと、施策実施の実現性を高めていきます。さらに行財政改革や行政評価との連動や、公共ストックの活用の視点に立ち、より一層効率的な行政経営に向けて、また、成果を点検・評価し、施策や事業の見直しが行える計画とします。

●市民の目線を重視した、一層わかりやすい計画

第２次総合計画書の構成・内容・表現・印刷レイアウトについても、一層わかりやすく親しみやすいものとし、市民への訴求力を持った親しみやすい計画とします。

第２章　計画策定の背景等

市をとりまく状況等

【社会情勢】
- 人口減少・少子高齢化の進展〈b,e〉
- 地球環境問題の深刻化〈b〉
- ライフスタイルの多様化〈b〉
- 安全・安心意識の高まり〈a,d〉
- インフラの老朽化〈a〉
- 高度情報化の進展〈c〉
- 労働力の変貌〈b,c,e〉
- 市民参画・協働意識の高まり〈d〉

【弥富市の概況】
- 海抜０メートル地帯の極めて平坦な地形的特徴〈a〉
- 河口に広がる肥沃な浅瀬を開拓、豊かな水郷文化を形成、近年は名古屋市隣接のベットタウンとして隆盛〈b,c〉
- 県内市部(38 市)中、最小の人口規模、高齢化の進行の一方、近年、流入人口が増加傾向〈b〉
- 労働力人口に対する就業者の割合は高い〈c〉
- 日本有数の生産を誇る「弥富の金魚」があるが、近年は港湾部（名古屋港西部臨海工業地帯）における製造業がまちの活力をリード〈c〉

市民意向等

【市民アンケート(H29 年度)から】

〇市への定住意向は、「住み続けたい」・「どちらかといえば住み続けたい」あわせて７割程度〈b〉

〇各施策６分野 53 項目ごとの５段階で評価（全体）

満足度(高)：①乳幼児等医療費助成など福祉医療サービスの充実〈b〉
②各種検診など保健サービスの充実〈b〉

満足度(低)：①コミュニティバス交通網の整備〈b,c〉
②観光の振興、駅や市役所周辺の整備〈c〉

今後の重要度：①災害対策(地震・風水害等)の充実〈a〉
②防犯対策の充実、河川改修や雨水排水対策の充実〈a、b〉

【市民ワークショップから】

〇まちづくり提案（抜粋）
- 安全安心の都市基盤づくり〈a〉
- 避難場所の見直しと周知徹底〈a〉
- 具体的困り事受付ＨＰの設置〈b〉
  （例：ＯＫ金ちゃん）
- スポーツが盛んなまちのＰＲ〈c〉
- 商店街の活性化〈b、c〉
- 行政の人事評価に発信度をプラスする〈e〉

など

第１次後期基本計画施策評価

【施策評価】 達成度(高)：「産業」〈c〉、「生活環境」〈b〉、「保険・医療・福祉」〈b〉
達成度(低)：「人権・協働・行財政」〈d,e〉、「教育・文化・スポーツ」〈c〉

（注）上表の<a>、<b>、<c>、<d>、<e>は、下表のまちづくりの課題認識

まちづくりの課題認識（次ページに概要掲載）

〈ａ〉安全・安心なまちづくり（防災・減災・復興など）への対応	〈ｂ〉人口減少・少子高齢化の進展をふまえた住み続けられるまちづくりへの対応	〈ｃ〉まちの活力や魅力の創造・強化への対応	〈ｄ〉市民等との協働・共助のしくみづくりへの対応	〈ｅ〉持続可能な行財政運営への対応

第３章　まちづくりの課題認識

前章の計画策定の背景等に示す社旗情勢、市の概況、市民意向等をふまえた、まちづくりの課題認識を示します。

課題	内容
安全・安心なまちづくり（防災・減災・復興など）への対応	・防犯や交通安全対策の充実 ・市民の参画による、安全・安心なまちづくりの継続・維持 ・誰にでもやさしいまちづくり ・治水、護岸整備、市街地内の防災対策の継続
人口減少・少子高齢化の進展をふまえた住み続けられるまちづくりへの対応	・若年世代やファミリー世代の定住促進 ・高齢者等福祉の充実 ・市民の健康寿命の延伸 ・より生活しやすい居住環境づくり ・子育て支援策等の充実・強化と発信 ・地域スポーツ・文化活動の活性化 ・生産年齢（15～64 歳）人口の更なる吸引による都市活力の維持 ・適正な宅地開発等の誘導
まちの活力や魅力の創造・強化への対応	・金魚などの地域独自資源に関する情報発信 ・生産性向上のための IoT などの活用 ・企業誘致の継続 ・地域の特産物、観光資源などを活かした産業振興 ・地域で働く場所や生活利便施設の整備 ・企業立地環境の維持
市民等との協働・共助のしくみづくりへの対応	・地域住民（共助）による、生活に身近なまちづくりの展開 ・地域住民（共助）による、支えあいのまちづくりの展開 ・女性活躍社会の推進 ・市民による主体的なまちづくりへのサポート
持続可能な行財政運営への対応	・少子・高齢社会に応じた公共施設ストックの適切な維持・管理 ・安定的な財源確保 ・効率的な行政サービスの実施

◆ 基本構想 ◆

第１章　まちの将来像

（将来のまちづくりの考え方（基本理念））
まちづくりの課題認識をふまえ、その解決と、目標年次（１０年後）を見とおした、弥富市の将来のあり方等を記載

（将来像）

●現計画の将来像「みんなでつくるきらめく弥富　自然と都市が調和する元気交流空間」から、職員提案をふまえて第２次計画として新たに設定します。

◆新しい将来像設定のキーワード（市民アンケートより）

優しい、つながり、協力、助け合い
住みやすい、暮らしやすい、
楽しい、笑顔、元気、明るい

第２章　めざすまちづくりの方向性（将来フレーム）

基本構想の目標年度に向けて、まちづくりのフレームを次のように定めます。

１．基本指標（人口の見通し）

まちの活力と規模を維持していくための基本となる人口については、政策的に各取り組みの底上げを図る前提で、弥富市人口ビジョンにもとづく目標人口値から、第２次総合計画の目標年時の値を位置づけます。

＜現在値（平成 29 年１月）＞（2017 年）	＜目標年（2028 年）＞
■総人口　44,277 人	■総人口　約 43,000 人 （約 1,300 人減）
■年齢別人口	■年齢別人口
０～14 歳（年少人口）　5,919 人	０～14 歳　約 5,700 人
15～64 歳（生産年齢人口）27,267 人	15～64 歳　約 25,700 人
65 歳～　（老年人口）　11,091 人	65 歳～　約 11,600 人

２．将来都市構造

市の土地利用の方向性ともに、鉄道、高速道路網などの広域的な交通軸と、鉄道駅などの交通結節点を中心に将来的なまちの骨格構造を位置づけます。

●人口ビジョンをふまえた持続可能な行政運営を可能とするコンパクトな都市構造を形成

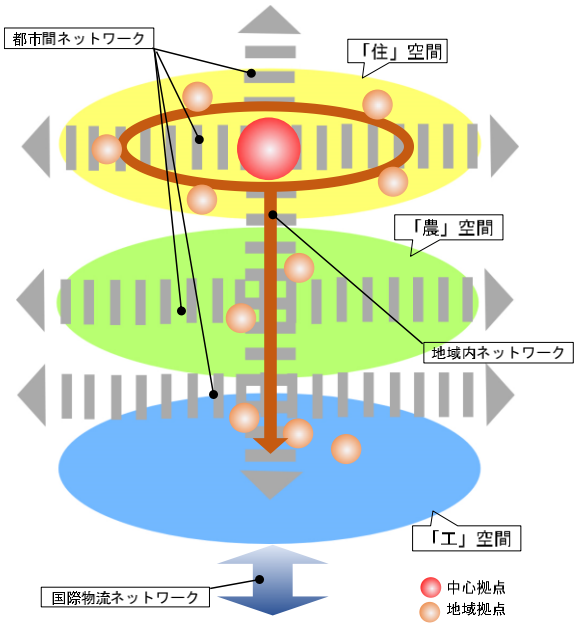
●現状の機能や地域の特性を活かした『住』、『農』、『工』の３つの空間構造を基本

●本市の主要な機能・施設が集約したにぎわいある中心拠点を核とする、利便性の高い定住空間の形成

●中心拠点を核として各拠点間を結び、商業機能の充実、生活利便性の向上や地域間の連絡性を強化する地域内ネットワークを形成

●広域的な交流や産業の活性化に向け、各空間から全国へ広がる都市間ネットワークを形成

●本市の産業を支える国際物流ネットワークを活用した産業空間を形成



第３章　まちづくりの基本目標

将来像「　　」の実現に向けて、まちづくり分野に対応した６つの基本目標を設定し、これらに基づき具体的な施策を推進していきます。

市をとりまく状況等・市民意向等・第1次後期基本計画施策評価

	まちづくりの課題認識（内容）					
安全・安心なまちづくり（防災・減災・復興など）への対応	防犯や交通安全対策の充実 市民の参画による､安全安心なまちづくりの継続・維持	誰にでもやさしいまちづくり			治水、護岸整備 市街地内の防災対策の継続	
人口減少・少子高齢化の進展をふまえた住み続けられるまちづくりへの対応	若年世代やファミリー世代の定住促進	高齢者等福祉の充実 市民の健康寿命の延伸 より生活しやすい居住環境づくり 子育て支援策等の充実・強化と発信	地域スポーツ・文化活動の活性化	生産年齢（15～64歳）人口の更なる吸引による都市活動の維持	適正な宅地開発等の誘導	
まちの活力や魅力の創造・強化への対応			金魚などの地域独自資源に関する情報発信	生産性向上のための IoT などの活用 企業誘致の継続 地域の特産物、観光資源などを活かした産業振興	地域で働く場所や生活利便施設の整備 企業立地環境の維持	
市民等との協働・共助のしくみづくりへの対応	地域住民（共助）による生活に身近なまちづくりの展開	地域（共助）による支え合いのまちづくりの展開				女性活躍社会の推進 市民による主体的なまちづくりへのサポート
持続可能な行財政運営への対応					少子・高齢社会に応じた公共施設ストックの適切な維持・管理	安定的な財源の確保 効率的な行政サービスの実施
	↓	↓	↓	↓	↓	↓
基本目標の設定	**生活環境** 「いつまでも住み続けたい安全・安心なまち」	**健康・子育て・福祉** 「笑顔あふれる、健やかで共に支え合うまち」	**教育・文化・スポーツ** 「心豊かで文化を育む人づくりのまち」	**産業・雇用** 「人と地域の資源を活かし、にぎわいを生み出すまち」	**都市基盤** 「良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち」	**協働・行財政** 「市民と行政がつながり､共に行動するまち」
	（施策目標）					
	○消防･防災 ○防犯、交通安全 ○環境衛生 ○環境対策	○高齢者支援 ○子育て支援 ○健康づくり･医療 ○社会保障 ○障がい者支援 ○その他福祉全般	○学校教育 ○文化･芸術振興 ○生涯学習 ○青少年育成 ○スポーツ振興	○工業振興 ○観光振興 ○商業振興 ○農水産業振興 ○雇用対策･○勤労者福祉 ○消費者対策	○上下水道 ○道路･交通 ○治水対策 ○市街地整備 ○港湾地域整備 ○土地利用 ○公園･緑地 ○住宅宅地整備	○自治体経営 ○市民協働 ○男女共同参画 ○コミュニティ ○交流･連携 ○情報共有

第４章　構想の実現に向けて

総合計画（基本構想）を推進していく上で、留意すべき基本的な考え方を以下に示します。

○総合計画の進行管理の実践

・基本計画施策評価（目標指標の設定と進捗管理）等の継続
・外部評価（協働の理念に基づく市民評価）等の実施

○協働と自主自立によるまちづくりの普及・実践

・行政計画策定段階からの「市民協働」の推進
・市民、地域、団体等の連携強化、協働によるまちづくりの実践

○行政経営の観点による持続する市政運営の推進

・選択と集中の概念に基づく施策事業の重点化と着実な実行
・着実な計画推進に資する庁内組織体制の見直し
・民間企業等の経営手法の参照による市の特性に応じた行政経営の確立